

一般口演 | 1-11 心不全・心移植

一般口演-5

心不全

座長:

白石 裕比湖 (城西病院)

星合 美奈子 (山梨大学)

Thu. Jul 16, 2015 9:00 AM - 9:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)

I-O-21~I-O-25

所属正式名称: 白石裕比湖(城西病院 小児科)、星合美奈子(山梨大学医学部 新生児集中治療部)

[I-O-22]Glenn術前の高尿酸血症は心不全及び死亡率を反映する

○浜道 裕二¹, 金川 奈央¹, 豊川 富子¹, 平野 恭悠¹, 田中 智彦¹, 青木 寿明¹, 河津 由紀子¹, 稲村 昇¹, 萱谷 太¹, 盤井 成光², 川田 博昭² (1.大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科, 2.大阪府立母子保健総合医療センター 心臓血管外科)

Keywords:尿酸, Glenn, 心不全

【背景】慢性心不全において血清中の尿酸 (UA) 値は低コストの総合的予後予測マーカーとして報告されている (Circulation, 2003)。Fontan candidate の Glenn 前の状態 (preGlenn) においては強い心 stress に曝されている例が多いが、preGlenn における UA 値上昇の報告はない。【目的】preGlenn における UA 値上昇例の臨床像について検討した。【対象と方法】対象は心臓カテーテル検査及び UA 測定を同時期に施行した preGlenn の 171 人。UA 値を 5 分割し、上位 1/5 ($\geq 6.5 \text{ mg/dl}$) を UA 高値と定義。同時期に施行したカテーテル検査による指標、血液検査値、利尿剤量と UA 高値との関係について検討した。次に UA 高値群と非高値群の臨床的特徴を比較した。【結果】多変量解析で UA 高値に独立して関与する因子は、Lasix 量 (内服 $\geq 3.4 \text{ mg/kg/日}$ 又は静注 Lasix: odds 比 9.1 倍)、Cre 値 ($\geq 0.30 \text{ mg/dl}$: 3.9 倍)、大動脈酸素飽和度 ($< 74\%$: 3.6 倍)、房室弁逆流 ($\geq \text{III/IV 度}$: 3.5 倍)、BNP 値 ($\geq 205 \text{ pg/ml}$: 3.3 倍)。単変量解析では他に、主心室の駆出率の低下、収縮末期容積の拡大、拡張末期容積の拡大、拡張末期圧の上昇及び下大静脈圧の上昇が関与した ($R\text{-square}=0.36$)。UA 高値群と UA 非高値群では、体重 SD 値及び心胸郭比に有意差はなかった。しかしながら、UA 高値群は非高値群にくらべて心不全で入院している例が多く ($41\% \text{ vs. } 3\%$, $p < 0.0001$)、退院後も含めて死亡する例が多かった ($20\% \text{ vs. } 1\%$, $p < 0.0001$)。【まとめ】Fontan candidate の preGlenn における UA 高値には、全身状態が良くないことを示す因子が独立して関与していた。単解析においては、個々の心機能因子の低下がそれぞれ関与していた。臨床的差異が乏しいにもかかわらず、UA 高値群では心不全、死亡を含めて重症例が多かった。preGlenn における UA 高値は、状態の悪化を見出し治療の step up を考える指標になるかも知れない。